



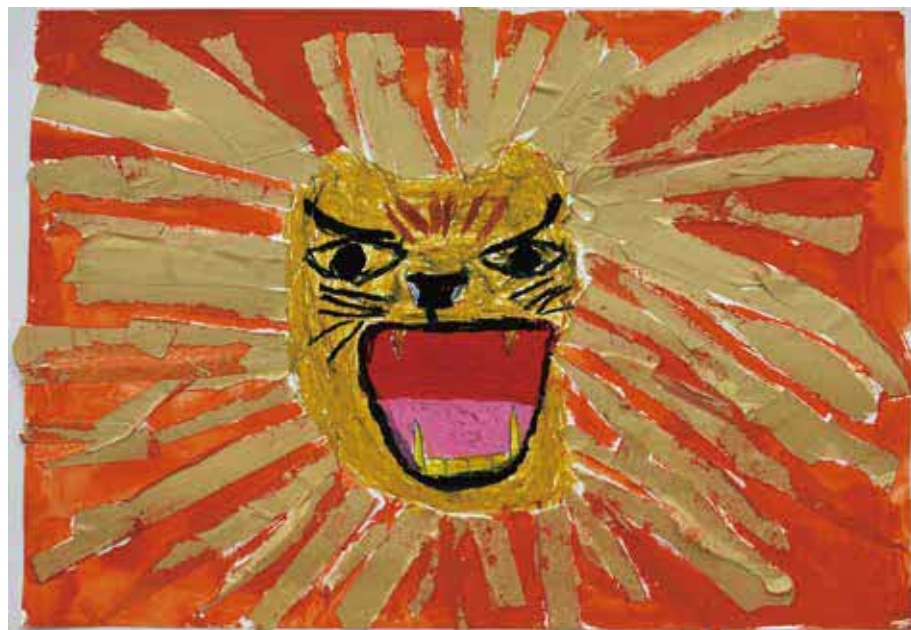
さくら



題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 市村 智
編集 広報委員会
発行日 2025年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「ダンボールライオン」 東湊江小 4年 にしじま ひかり
西島 光彩 作

目次

新部課長 あいさつ	1
特集	
福祉まると相談課	2・3
民生・児童委員PR週間	
ミンジーFesta開催	4・5
子どもたちはいま	
主任児童委員の声から	6
絵画・俳句	6・7
こころの健康フェスティバル	7
社協 新旧常務理事 あいさつ	8
地域を訪ねて	8
編集後記	8

新部課長あいさつ



人とのつながりを大切に

福祉部長 伊東 貴志

5年ぶりに「古巣」福祉部へ戻ってまいりました。ケースワーカー時代や課長として高齢福祉や親子支援業務に携わる中で、常に民生・児童委員の皆様から多くの支えをいただき、心から御礼を申し上げます。

「古巣」を離れていた間、区の基本計画策定を担い、その中で「区民のウェルビーイングを高める」ことを新たな区の方針として掲げました。ウェルビーイングは、「区民の幸福感が満たされ、よりよく生きる社会が実現した状態」です。幸福やよりよい社会には、人とのつながりが不可欠、つまり、隣人愛です。民生・児童委員の皆様が隣人愛をもって、地域住民の幸福を一層高められる活動を、私たち行政も一体となって進めてまいります。

今後とも温かいご指導、お願い申し上げます。



連携して課題解決を

福祉管理課長 森田 剛

4月1日付の人事異動で、福祉管理課長に就任いたしました。

福祉事務所のケースワーカーや課長として、民生・児童委員の皆様には様々な励ましやご指導をいただいたことが、昨日のことにように思い出されます。

縁あって、また一緒に仕事ができることを大変うれしく、また、歴史や伝統、実績のある足立区民生・児童委員協議会に関われることを誇りに思っています。区民の方々が安心して暮らせる地域づくりのため、皆様と連携を深め、課題解決に取り組んでまいりたいと存じます。あわせて、皆様が少しでも活動しやすい環境を整備するよう、事務局として全力でサポートしてまいります。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



誰でも、なんでも相談できる福祉窓口 福祉まるごと相談課

令和6年4月に「福祉まるごと相談課」が開設されて約1年。8050問題やダブルケアなど従来の制度・分野で分かれた縦割りの公的支援だけでは、対応しきれないケースが増えるなか、複雑な困りごとの相談を受けとめる「福祉まるごと相談課」の現状を取材しました。

「福祉まるごと相談課」 ってどんなところ？

高齢・介護・障がい・子育てなど、生活全般に関するさまざまな悩みや困りごとを、なんでも相談できる福祉窓口です。困りごとを抱えたご本人やご家族などを足立区の関係部署や支援機関につなげるなど、いっしょに解決策を考えていきます。

1 受けとめる

総勢22名の職員が、世代、相談内容にかかわらず、どんな相談でも断らずに受けとめる。「どこに相談したらいいかわからない」「いくつもの窓口をまわらなければならない」などの悩みが解消される。

2 つなぐ

「ほかに困りごとはないか」などを聞き取ったうえで、適切な支援先につなげる。複雑な困りごとは、定期的に支援会議（6部16課の職員＋社会福祉協議会が参加）を実施し、さまざまな視点から、より適切な支援策を検討する。

より適切な支援で寄り添うために

かつては家庭や地域のつながりのなかで、支援・解決してきた困りごとが、少子高齢化や住民同士の結びつきの希薄化で解決が難しくなっています。さらに、老老介護や認知介護、ひきこもりなど、本人や家庭内で複数の課題が重なって、従来の縦割りの公的支援だけでは対応しきれないケースが増えていきます。

「福祉まるごと相談課」は、これまでの各分野の相談体制や支援をベースに、支援を必要とする方により適切に寄り添えるよう対応する窓口です。民生・児童委員のみなさんも日頃の活動のなかで、「どこに相談したらいいかわからない」「複数の困りごとを抱える」などの困りごとに出会った場合は、ぜひ福祉まるごと相談課もご活用ください。

対面

電話

メール

訪問

利用しやすい方法で相談を

相談時間	月	火	水	木	金	土	日
AM 9時～PM 5時	○	○	○	○	○	※1	※2
PM 5時～7時		○			○		

相談窓口は下記の2か所です。どちらの窓口に来ていただいてもOK!

すこやかプラザ あだち 3階
 住所：足立区江北5-14-5
 TEL：03-5888-4571
 ※1 休日開庁日：第2土曜日

足立区役所 別館1階
 住所：足立区梅島2-2-2
 TEL：03-38808-5705
 ※2 休日開庁日：第4日曜日

3 アウトリーチ

福祉まるごと相談課まで来られないときは、職員が自宅などを訪問してお話を伺う。

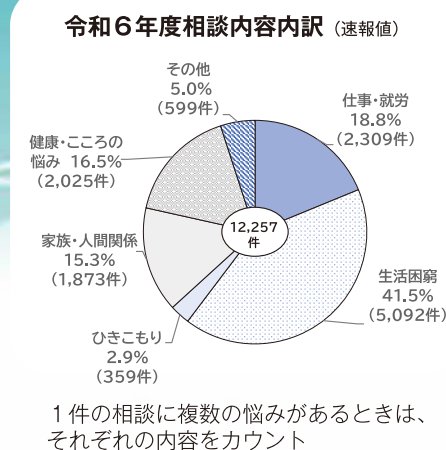


「福祉まるごと相談課」
課長 大北有慶（右）
ひきこもり支援担当係長 白水志尚（左）

増えた「家族・人間関係」が絡んだ相談 1年間の相談内容から…

開設以来の相談件数はのべ5,683件（令和7年3月末）で、なかでも新規でのご相談が増えています。就労や生活困窮についての相談が半数以上を占める傾向はこれまでと変わりませんが、どんなことでも話せることから、多くの相談の背景に家族や人間関係の複雑な悩みがあることが見えてきました。それらの課題にさまざまな角度から向き合っていくことが、課題の解決につながります。

* 令和6年3月までは「くらしとしごとの相談センター」（福祉まるごと相談課の前身）で対応。



<相談例>

80代の親が逝去。20年近くひきこもり状態の50代の子が一人きりに。

アプローチ

- ・子の健康状態の確認（発達障がいの有無などメンタル面を含む）
- ・家事や各種手続きなど日常生活のサポートをどうするか検討（自宅で生活したい本人の思いに寄り添う）
- ・経済的な支援が必要かを確認
- ・社会的なつながりをつくるには…など



生活困窮のひとり親家庭の相談から、子どもの不登校も判明。

アプローチ

- ・生活の安定に向けてどう支援していくのか検討
- ・親子、それぞれの健康状態の確認（発達障がいの有無などメンタル面を含む）
- ・「こども支援センターげんき」と連携
- ・虐待、ネグレクトの可能性はないか…など
- ・学校、スクールソーシャルワーカーなど教育機関とも連携



「ひきこもり」への支援 セーフティネットあだち

ひきこもりは、「さまざまな要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、家庭や自室にとどまり続けている状態」を言います。年代を問わず誰にでも、どの家庭にも起こりえることで、特別なことではありません。日頃の活動のなかで、ひきこもりについての悩みに気づいたり、ご家族からお話を聞いたりした際は、ぜひこちらをご紹介ください。

相談支援

知識やノウハウをもつ専門事業者が担当。
ひきこもりご本人だけでなくご家族・きょうだいも対象。

対面 電話 メール 訪問

居場所支援

ひきこもりご本人に家庭以外のホッとできる場を提供します。スタッフや利用者との交流のほか、自分のペースで読書や描画など自由に過ごせます。

場 所 学びピア21 7階
（足立区千住5-13-5）
電 話 03-6807-2762
利用日時 月～金 10:00～18:00
* 毎月第2月曜（祝日の場合は第3月曜）は休み



くつろぎやすい雰囲気のフリースペース。カードゲームやボードゲームなどの準備も。

取材：8地区 吉澤 はる江
11地区 吉井 記代
17地区 林 哲司

ミンジー Festa

民生・児童委員 PR 週間イベント

ミンジーといっしょにお出迎え
(右は市村 智 協議会会長)



New

クイズラリー



今回初めて、展示のパネルを見てクイズに答えるラリーを実施。参加者には大抽選会の抽選券を配付するとあって、開始早々、200枚用意した解答用紙が足りなくなるといふハプニングも。急きょ追加発行した用紙も、昼までにはすべてなくなる大盛況でした。

終了間際までクイズラリーに参加してくださる方もいて、やりがいのある1日でした。

福祉作業所の販売コーナーではパンやクッキー・焼き菓子、手芸品・文具などがいっぱい。お買い物を楽しむ人が次々に



5月12日～17日は、民生・児童委員の活動を多くの方に知ってもらうPR週間。17日には足立区役所本庁舎で「ミンジーFesta」を開催。雨が続くあいにくの天気でしたが、さまざまなイベントでにぎやかにPR週間を締めくくりました。

大抽選会



すてきな賞品がたくさん！



今年の抽選会は、賞品も商品券や友好都市（栃木県鹿沼市、新潟県魚沼市、長野県山之内町）の特産品などを前回より多く用意した結果、当選確率も10人中3人とアップ。当選番号もパソコンでランダムに選んで正面の画面に表示するなど工夫し、前回より効率よく進行できました。

当選番号が読み上げられるたびに、会場からは歓声があがり、賞品を手渡す委員からも笑顔がこぼれます。また、外れてしまった方全員にも記念品のお菓子が配られました。大抽選会がミンジーFestaの名物イベントになればと思います。



民生・児童委員のコーラス部 葦立『コール絆』の美しい歌声。「白いブランコ」など4曲を披露

健康チェックコーナーでは話題の「あだち脳活ラボ」の登録サポートや、野菜の摂取レベルがわかる「ベジチェック」も



New

風船で犬・花や剣などをサッと作る「ふうせんの実さん」。バルーンアートのボランティアさんです！



感謝状贈呈式



ミンジーとビュー坊もいっしょに記念撮影

昨年度の本誌「さくら」に掲載された絵画、俳句の作者に、感謝状の贈呈式が行われました。多数の来場者と中村教育長、市村協議会会長、鶴岡広報委員長が見守るなか、作品が壇上の大スクリーンに投影され、会場からはそのすばらしさに感嘆の声があがりました。

保護者の方からは「立派な表彰式で、子どもたちも一生忘れない思い出になる1日でした」と、ありがたい感想をいただきました。

キッズコーナー

主任児童委員が担当するキッズコーナーは、楽しい遊びがいっぱい。ペットボトルのキャップをつけ、好きな色を塗った木工カーを、専用レーンでなんども走らせる子どもたち。マンカラ(ボードゲーム)やパチンコ、折り紙など、昔ながらの遊びにハマる子も目立ちました。

縁日コーナーではペットボトルのボーリングや割りばし射的も。大人も童心にかえて挑戦し、ごほうびの駄菓子に満足げでした。



New

縁日
よく、ねらってね！



5/8
足立区長と玉ノ井親方も
民生・児童委員をアピール！



今年は「一日民生・児童委員」として、近藤やよい区長と玉ノ井親方（元大関栃東）が参加。北千住駅で40人の委員やミンジーといっしょに、ティッシュや啓発チラシを配布しました。

当日の様子はテレビでも報道され、区内約500人で活動する民生・児童委員の現状を、多くの方に知っていただくよい機会になりました。

5/12～5/17
民生・児童委員との相談コーナー



PR週間の期間中は、区役所アトリウム内に民生・児童委員の相談コーナーが開設されました。相談件数は合計16件。相談内容はシニア世代からは孤立の不安、現役世代からは介護問題など、世代によってさまざまな悩みが寄せられました。

相談員として対応にあたった第五合同の江新地区茂出木会長は「抱えていることを話すだけで、心は少し軽くなります。相談にいらした方の気持ちに寄り添い、つなげられる空間作りを心掛けました」と話します。

ゆっくり時間をかけての対応が、相談者の疲れた心を癒しているようでした。

取材：広報委員会



主任児童委員の声から

子どもや子育てなど、児童福祉についての支援を専門的に担当するのが主任児童委員です。その活動からは、今の子どもたちを取り巻く状況の一端が見えてきます。

ひとり親家庭の訪問からスタート

主任児童委員を拝命し、3期9年目を迎えました。最初は何もわからない中、区の担当者からひとり親家庭の中学生、高校生が家庭の事情で夜ひとりになってしまう数か月の間、夕方や休日に訪問し、または電話をかけてほしいとの依頼がありました。

週に一度約束の時間に訪問し、無事を確認して区の担当者に報告しました。そんな案件をこなしながら各学校と関わるうち、登校渋りや不登校状態にある児童や生徒を支援する「登校サポーター」になりました。登校のお迎えを続けて3年、今は別室登校の支援をさせていただいています。

それまで知らなかった複雑な家庭事情や困りごと等に触れる機会もあり、大変なときもあります。しかし主任児童委員としての自覚や誇りを持って、困りごとのある方に寄り添い見守る活動を続けていきたいと思っています。（14地区 新妻千賀子 記）

解決策はひとつではない

相談内容や支援で起こる問題は似ていても、それぞれの解決策はすべて同じとは限りません。どんなときも相談者の気持ちに寄り添い、親身になって状況を詳しく聞き取り、たとえそれが自分の思う常識とかけ離れていたとしても、相談者と同じ目線で考えるようにしています。そして事実をきちんと把握し、正確に行政につなぐパイプ役を務めることが、私の任務だと思っています。

この活動には携わる方々とのチームワークが、大変重要です。守秘義務に基づき同じ地区の委員さんや関係機関の方々との情報共有や交換が必要になり、ふだんから学校行事などへの参加で、いろいろな機関の方と顔見知りになることも有効だと思っています。

すべての案件がうまく解決するわけではありませんが、主任児童委員の活動を通じて、みなさんといろいろな経験をできることが私自身の日々の原動力になっていると感じます。（19地区 甘利みちる 記）



困難抱える外国ルーツの子どもたち

外国にルーツを持つ子どもたちに関わるが増えてきました。親子とも言葉の壁があるうえ、ひとり親家庭・貧困・虐待と、複雑で深刻な悩みを抱えていることが多いようです。日本人の夫に先立たれた東南アジア出身の母親が、3つの仕事を掛け持ち。小学生の子どもが夜間ひとりという家庭も。訪問で関わっていた女子中学生が、母親からの暴力に耐えかねて、家出して我が家を訪ねてきたこともありました。

主任児童委員になって20年。子どもには安心・安全な居場所が必要だとつくづく思います。つらいときに帰ってホッとくつろげる場合は、子どもにとって成長の土台となるものですが、今の社会にはそれが欠けているように感じます。私たちの役目は見守りが必要な子どもたちとその親に寄り添いながら、より良い支援につなぐこと。この子たちが成人するまで、見守り続けたいと思います。（3地区 宮崎保子 談）



「四季」
しまだ さとる
東淵江小 5年 嶋田 暁 作

おおにぎわいのバザーで協力 こころの健康フェスティバル

たくさんの善意に感動

今年はいつもの以上に品物が集まり、打ち合わせでは作る予定がなかった700円コーナーを設置。販売を担当できる民生・児童委員がいなかったため、高野前中部第一福祉課長、飯塚西部福祉課長が助っ人で参加。なんと700円コーナーの品物を完売していただきました。市村協議会会長や坂田実行委員長をはじめ、当日参加した民生・児童委員や、福祉部の職員の方々は、朝から長時間にわたって、準備・販売・後片付けに尽力されていました。

また、出口付近においた募金箱には、多くの寄付をいただきました。なかにはわざわざ他の展示ブースから戻ってきて募金される方も。心温まる皆さんの行動を目の当たりにして、感動の一日を過ごすことができました。（15地区 向山義一 記）



収益494,854円は
精神保健福祉事業に
(足立区役所本庁舎にて/3月1日)

ドキドキ、達成感いっぱいの日

準備は日時を決め、住区センターに出品商品を持ち寄ることから始めました。「最近ではカタログギフトが増え、出品できるものが少ない」との声もありましたが、定刻には品物が続々と集まり、ワイワイ楽しみながら種類分けや値札つけをしました。価格の決定には厳しい主婦の目線が光り、作業は30分程度で完了しました。

当日、私たち3地区は100円商品の担当。売れ残らないよう「3つで100円」などお得感をアピールする必死モードの作戦で、来場者の視線を集めました。楽しくもあり、ドキドキもあり、達成感いっぱいの日でした。

（3地区 小澤喜美子 記）

小学生絵画コーナー



「ポイズンシティ」
たての かいと
大谷田小 5年 館野 海音 作



「自分だけのアトリエ」
さかい つぐみ
長門小 4年 酒井 緒美 作

中学生俳句コーナー

興本扇学園 足立区立扇中学校

※興本扇学園は小中一貫校。八年生は中学二年生。

桜散り	あたたかい	入学の	花吹雪	新学期	日を追って	桜の木
初夏の暑さを	光集める	桜が舞う日	笑い声乗せ	いつしよに進む	夏を輝く	遙かに香る
思い出す	桜の木	風の音	川を越え	春の道	向日葵と	庭の花
八年	八年	八年	八年	八年	八年	八年
徳永	小泉	大平	光井	関根	荒井	鈴木
あさひ	佳澄	心晴	泰陽	倭心	香織	悠真

社会福祉協議会 新旧常務理事 あいさつ



常務理事
荒井 広幸

令和7年4月に事務局長に着任いたしました。これまで福祉分野にはほとんど関わったことがない私にとって、社会福祉協議会での日々は学びの積み重ねです。

そんな私ですが、学びを重ねる中でこんなことを感じています。それは、福祉ニーズが多様化・個別化していく中、そうしたニーズに添っていくには、多様な福祉サービスの担い手がそれぞれの得意分野で力を発揮しつつ、時にはお互いに連携・協力しながら、総力で足立区の福祉を支え、充実させていくことが大切だということです。

もしかしたら、経験の浅い私の思い込みが混じっているかもしれませんが、こうした思いを胸に課題と向き合ってまいりたいと思います。皆様のご支援、ご指導、よろしくお願い申し上げます。



前常務理事
久米 浩一

定例の会議や研修会の他、コロナ禍明けでの活動再開に伴い復活した会長協議会や合同での視察研修旅行・新年会などの各種行事に懐かしい思いで参加させていただきました。

新任民生・児童委員だった方々が、長年の活躍と献身により会長・部会長になられている姿を拝見し、改めて「地域に生きる事」「地域を支えていく事」を考えさせていただきました。

これからは、私も地元にて「地域のみなさんとともに生き、残りの人生を過ごしていく事」を胸に生きていきたいと思っています。

二年の間、お支え頂きありがとうございました。今後とも足立区社会福祉協議会をよろしく願いいたします。



地 域 を 訪 ね て

保木間氷川神社と田中正造 鉱毒事件の解決を誓う

足立区立測江小学校の東側に、保木間氷川神社があります。この神社で行った田中正造衆議院議員の演説「保木間の誓い」が記録に残っています。

1898（明治31）年、渡良瀬川の洪水で足尾銅山の鉱毒被害が激化したため、足尾鉱毒被害民は9月に上京し政府に3回目の押出し（請願行動）を起こします。上京途中に憲兵や騎馬警官による阻止・排除を受けた被害住民3,000人が淵江村に到着すると、淵江村の村長坂田正介はじめ村会議員は炊き出しを行って対応しました。ここに駆け付けた田中正造は解決を誓う演説「保木間の誓い」を行いました。その後の1901（明治34）年、田中は明治天皇への直訴を決行するなど解決に努力を続けます。

保木間氷川神社は明治5年、伊興氷川社から分離し、保木間の「鎮守」を担います。足尾鉱毒事件から

140年余り過ぎましたが、今でも、公害は発生しています。有毒な排水、自然破壊等に起因する被害は、後を絶ちません。地域の「鎮守」は、いまでもこれからも時代の流れを守っています。



（江北地区 木村克博 記）

参考文献 「公害の原点を後世に」 広瀬 武 著（随想舎）、「測江地区 足立の政治誌」足立区郷土博物館、足立風土記編さん委員会編ほか

●「さくら」への原稿募集中!

原稿は未発表のものに限りです。
誌面の都合上、事前に地区の広報委員
にご相談ください。

過去の「さくら」はこちらから→



編集後記

年3回発行の広報誌「さくら」は、今回で68号になりました。今号では特に福祉まるごと相談課の紹介とPR週間について、詳しく書いております。この特集でご協力いただいた方々に、感謝申し上げます。

広報委員会では先輩方の指導を引き継ぎながら創意工夫をし、親しみのある有意義な内容となるよう努力しています。

また、皆様から掲載してほしい特集などがありましたら、ご意見をお寄せください。

（測江地区 宮澤カヨ子 記）

広報委員会

広報委員会

委員長	鶴岡 一郎	副委員長	吉田 祐一	編集長	杉本 和子	副編集長・レイアウト	吉澤 はる江	編集委員	山崎 雅明	吉井 記代	宇田川 毅	木村 克博	小宮 忍	向山 義一	林 哲司	眞野 賢枝		
校正長	富澤 久男	副校正長・レイアウト	富田 英紀	神野 松枝	校正委員	芦田 利恵	倉持 弘	藤本 悦子	下岡 博子	西野 正幸	赤岩 明美	編集委員・カメラ	鈴木 政博	校正委員・書記	中村 知代	永塚 徳雄	校正委員・会計	宮澤 カヨ子